

第183回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 〔丸数字は予想配点、合計 44 点〕

	正誤	理 由
1.	② ×	前受収益は、一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、いまだ提供していない役務に対し支払を受けた対価をいう。④ 【企業会計原則注解 5 (2)】
2.	② ×	同一企業内部の会計単位として独立した各経営部門の間における商品等の移転によって発生した損益は、内部利益である。④ 【企業会計原則注解 11】
3.	② ○	【企業会計原則第三・五・D】
4.	② ×	製造業における原材料等のように再調達原価の方が把握しやすく、正味売却価額が再調達原価に歩調を合わせて動く想定される場合には、再調達原価によることができる。④ 【棚卸資産の評価に関する会計基準 10】
5.	② ○	【税効果会計に係る会計基準注解 2】
6.	② ×	数理計算上の差異は、原則として、平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を毎期費用処理する。④ 【退職給付に関する会計基準 24】
7.	② ○	【固定資産の減損に係る会計基準二・二・(1)】
8.	② ×	取得関連費用は、発生した事業年度の費用として処理する。④ 【企業結合に関する会計基準 26 項】
9.	② ○	【連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準第二・一・1】
10.	② ×	会計上の変更とは、会計方針の変更、表示方法の変更及び会計上の見積りの変更をいい、誤謬の訂正は含まれない。 【会計上の変更及び誤謬の変更に関する会計基準 4 項(4)】

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 38 点]

		用 語	
問 1	(a)	④	投資その他の資産
	(b)	④	正常営業循環
	(c)	④	1 年

		用 語	
問 1	(d)	④	のれん
	(e)	④	剰余金

問 2

繰延税金資産に関連した資産・負債の分類に基づいて、流動資産又は投資その他の資産
に分類する。④
【税効果会計に係る会計基準第三・1】

問 3

(1)	①	③ 創立費	②	③ 開業費
(2)	繰延資産として計上が認められる株式交付費は、企業規模の拡大のためにする資金調達などの財務活動に係る費用であり、株式の分割や株式無償割当てなどに係る費用はこれに該当しないため。④			
【繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い 3(1)】				

(別解) (1)は社債発行費等、開発費でも可。

問 4

繰延資産は換金価値がないことから、これを分配可能額の計算において減ずるべき額として考慮しなければならない。④
--

問題 3 [丸数字は予想配点、合計 18 点]

	用 語	計 算 式	意 味
例示	売上高売上総利益率	$\frac{\text{売上総利益}}{\text{売上高}} \times 100$	売上高に占める粗利の割合
(1)	R O E	$\frac{\text{当期純利益}}{(\text{期首株主資本} + \text{期末株主資本}) \div 2} \times 100$ ③	株主資本に占める当期純利益の割合であり、株主の立場からみた収益性を表す ③
(2)	配当性向	$\frac{\text{配当金}}{\text{当期純利益}}$ ③	当期純利益に占める配当金の割合であり、当期純利益が株主に対してどれだけ還元されたかを表す ③
(3)	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ ③	流動負債に対する流動資産の割合であり、企業の短期的な支払能力を表す ③